

社会科(歴史的分野)学習指導案

指導学級:1年2組29名
指導場所:1年2組教室
指導者:教諭 坂元 一善

1 単元名 「武士の台頭と鎌倉幕府」

2 単元について

(1) 教材観

この単元では、中世における武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きを学習する。12世紀から15世紀、わが国では政治や社会、文化などの面で大きな変化が見られた。地方の豪族が自分の土地を守るために武装したり、朝廷や貴族の身辺警護を行う武官が成長することで、武士が出現した。彼らは組織的にまとまり、武士団を形成するようになる。やがて、武士による朝廷への反乱も起こるようになり、朝廷はこの反乱をおさえるために、武士の力を必要とした。このようにして武士の力が、認められるようになった。

武士団の中で、特に力を持ったのが、源氏と平氏である。平氏を倒した源氏は、東国を中心に本格的な武家政権を打ち立てた。全国に守護、地頭を置きその支配を強めていく。鎌倉幕府の成立である。その後、將軍の暗殺など鎌倉幕府の混乱を機に、朝廷が政権の回復をねらって挙兵するという承久の乱が起こったが、幕府は朝廷を破り、京都に朝廷を監視するための六波羅探題を設置するなどして、その支配をますます強めていった。

また、鎌倉幕府のもとでは社会が安定し、農業に牛馬や鉄製の農具、草木灰などが使われることにより、農業が発達し、二毛作なども行われるようになった。また、工業の発達により、定期市なども開かれるようになった。

武士や民衆の成長とともに、文化の面での新しい動きが起こり、新しい仏教の宗派や彫刻作品、文学、建築様式が現れた。

このように、この単元では、古代の天皇や貴族の政治との違いに着目させながら、武士が成長していく様子を中心に歴史の流れを理解させたい。

(2) 生徒観

生徒は、中学校生活にも慣れ、社会科の学習にも意欲的に取り組んでいる。板書の内容もノートに整然とまとめることができる生徒が多い。また、授業の中で重要語句を答えさせる発問をすると、多くの生徒が挙手し発表することができる。

しかし、重要語句について説明したり、社会的事象について自分の考えをノートに書いたりすることができない生徒が多い。つまり、教師の説明は理解できるが、自分で思考・判断し表現することができない生徒が多いという実態がある。そこで、この単元においてもこのような傾向がみられるのかを確認したいと考え、小学校での既習内容について、次のような意識調査を行った。

〈平成23年9月28日実施 1年2組 29名〉

- あなたは、源頼朝という人物を知っていますか?..... はい(25名) いいえ(4名)
- あなたは、平清盛という人物を知っていますか?..... はい(21名) いいえ(8名)
- 源頼朝が何を行った人か、源頼朝について思いつくことを書いてください。(29名中4名回答)

鎌倉幕府 平家と戦った 弟の源義経と仲が悪かった
 戦いが強い

- 平清盛が何を行った人か、平清盛について思いつくことを書いてください。(29名中3名回答)

源氏に負けた 源義経と戦って負けた

5 「鎌倉時代」のことに、あなたが知りたいと思うことを書いてください。

- なぜ武士と呼ばれる人たちが出てきたのだろう。
- 源頼朝と源義経は何で兄弟なのにけんかをしたのか。
- 平清盛は何でそんなに有名なのだろう。
- 貴族はどこに行ったのだろう。何をしていたのだろう。
- 武士はどんな修行をしていたのか？

……………など。

意識調査の結果、源頼朝の名前については、25人（86%）の生徒が知っているにもかかわらず、頼朝について思いつくことを記入させると、29名中4名の生徒しか回答できなかった。平清盛の名前についても知っていると言えた生徒が21名（72%）であったが、思いつくことを記入させると、29名中3名の生徒しか記入することができなかった。

このことから、この単元においても社会的事象について、その語句自体は覚えていても、それがどのような意味をもっているのか、また、社会的事象間にどのような関係があるのかなどを思考・判断し表現する力が身に付いていない生徒が多いことが分かった。

また、鎌倉時代のことに、生徒に知りたいと思うことを書かせると、多くの書き込みがあった。このことから、鎌倉時代についてもっと知りたいと思っている生徒がたくさんおり、重要語句としての社会的事象だけでなく、その意義や他の社会的事象間との関連性についてもっと追究したいと思っている生徒が多いということが分かった。

(3) 指導観

指導に当たっては、武士が成長していく過程を追究し、この時代の特色をとらえることで、歴史の大きな流れを理解させる学習活動を展開させていく。その際、武士が台頭し、主従の結び付きや武力を背景に鎌倉幕府が成立し、勢力が拡大していくという古代から中世への転換の様子を、古代の天皇や貴族の政治との違いに着目して考察し、自分のことばで表現させるようにする。

そのためにこの単元では、まず単元を貫く大テーマ「鎌倉幕府はどのような特色をもった時代だったのだろう。」という課題を設定し、その大テーマに迫るためにはどのような課題を解決していけばいいのかという小テーマを設定し、小テーマを解決していくことで、大テーマに迫っていく課題解決的な学習を進めていく。

本校社会科では、このような課題解決的な学習を通して、社会的事象について多面的・多角的に考察し、自分のことばで考えを表現できる力の育成に取り組んでいる。さらにその課題解決的な学習の中で言語活動を工夫し、身に付けさせたい思考力・判断力・表現力等を高めるための取組を行っている。

本単元では特に、イメージマップを取り入れた授業を展開するとともに、生徒の学習意欲と内容理解の促進を図るためにICTを活用したい。

3 単元の学習目標

- 武士の起りから武家政権の成立と発展に対する関心を高め、意欲的に学習しようとする。
(関心・意欲・態)
- 武士の起りから武家政権の成立と発展、それにともなう諸産業の発達や社会の変化とのかかわりから課題を見だし、歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現することができる。
(思考・判断・表現)
- 武家政治の成立と発展、社会の変化、文化の広がりに関する図版、史料、年表、歴史地図などの様々な史料を読み取ったり、まとめたりすることができる。
(資料活用の技能)
- 武家政権が誕生して、武士の支配が次第に全国に広まり、武家社会が発展していったこの時代の歴史の流れを理解することができる。
(知識・理解)

4 単元の指導計画

節	時間	指導の流れ	言語活動 (☆)・ICT活用 (◎) の工夫
1 武士の台頭と鎌倉幕府	1 武士の成長	<ul style="list-style-type: none"> 単元を通した大テーマを確認させる。 平安時代の中ごろに登場した武士が、地方や都で起きた戦乱を経て、次第に勢力を広げていった様子を理解させる。 武士の成長に、荘園と公領からなる新しい土地制度の広がりに関連していることを考えさせる。 	☆ 武士がどのようにして力を拡大していったのかということについて、平将門や藤原純友の反乱や保元・平治の乱と関連させながら説明させる。(説明) ◎ 武士が勢力を拡大していく様子をプレゼンテーションソフトでまとめ、テレビに表示し、授業のまとめで活用する。
	2 武家政権の成立	<ul style="list-style-type: none"> 平氏の政治の様子と、平氏滅亡後、源氏が鎌倉幕府を開き支配力を広げていった様子を理解させる。 鎌倉幕府の将軍と御家人の関係に注目して、武家政権の特徴を考えさせる。 	☆ 鎌倉幕府のしくみについて、学習したことを活用してまとめさせる。(解釈・説明) ◎ 鎌倉や平泉の位置、中尊寺金色堂などの地図や写真などをテレビに表示して生徒に興味関心をもたせる。
	3 武家政権の成立(本時)	<ul style="list-style-type: none"> 鎌倉幕府の混乱や執権政治、承久の乱と鎌倉幕府の支配力が拡大したことによるどのような関連があるのかを考えさせる。 	☆ 承久の乱を経て、鎌倉幕府の支配力が拡大していく様子を、根拠を基に説明させる。(説明) ◎ 承久の乱を経て、鎌倉幕府の支配力が拡大していく様子をプレゼンテーションソフトでまとめ、テレビに表示し、授業のまとめで活用する。
	4 武士と民衆の動き	<ul style="list-style-type: none"> 鎌倉時代の武士の生活の様子を、絵巻物や「御成敗式目」などの資料を通して理解させる。 農業技術や手工業、商業の発達による生活の向上をもたらした社会の変化について考えさせる。 	☆ 農業技術や手工業、商業の発達による生活の向上がどのような社会の変化をもたらしたのかを資料を基にまとめさせる。(読み取り) ◎ 武士の館の模型や武士が武芸の訓練で使った道具などをテレビで表示して生徒に興味関心をもたせる。
	5 鎌倉時代の宗教と文化	<ul style="list-style-type: none"> 鎌倉時代の新しい仏教の特色を理解し、それが人々の心をとらえ広まった理由を考えさせる。 建築物、彫刻、文学作品のいくつかを具体的に調べ、鎌倉時代の文化の特色を理解させる。 	☆ 鎌倉時代の新しい仏教をまとめた資料から新しい仏教の特色をとらえさせ、それが人々間に広まった理由を自分のことばで説明させる。(解釈・説明) ◎ 建築物、彫刻、文学作品などの画像をテレビで表示して、鎌倉時代の文化へのイメージをもたせる。
	6 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 単元を通した大テーマについて、自分の考えをまとめさせる。 単元テストの実施。 	☆ 単元を通しての大テーマ「鎌倉幕府はどのような特色をもった時代だったのだろう。」についてこれまでの学習を振り返りながら自分の言葉でまとめさせる。(論述)

5 本時の実際 (3/5)

(1) 主題 「武家政権の成立」

(2) 学習目標

- 頼朝の死後、幕府の主導権は、執権の地位を独占した北条氏に移っていったことと、それに対して朝廷が、政権の回復をねらって承久に乱を起こしたことを意欲的に追究することができる。
- 承久の乱を経て、鎌倉幕府の支配力が拡大していった理由を考え、根拠を基に説明することができる。

(3) 研究仮説に沿った授業設計の視点

- 「鎌倉幕府の勢力はどのようになったのだろう」という課題に取り組みさせる際に、まず、個人でその課題に対する予想をたてる。次にグループで話し合いながらイメージマップをつくり、それを発表させ、自分たちの考えを分かりやすく伝える場を設定する。また、このような言語活動がスムーズに行えるように工夫したリードシート（ワークシート）を活用する場を設定する。
- 本時の課題に、より興味・関心をもって取り組みさせるために、導入で書画カメラを活用し、生徒の思考をゆさぶるような資料を提示する場を設定する。また、本時のまとめの際に、プレゼンテーションソフトを活用することで生徒の内容理解の促進を図る。

(4) 評価規準と生徒の姿

観点	評価規準	生徒の姿
関心・意欲・態度	鎌倉幕府が承久の乱を経て、さらに支配力が拡大していく様子を、意欲的に追究しようとする。	グループで意見を出し合いながら、意欲的にイメージマップを作成しようとしている。
思考・判断・表現	鎌倉幕府が承久の乱を経て、さらに支配力が拡大していく様子を通して、多面的・多角的に考察し、根拠を基に、自分の考えを説明している。	鎌倉幕府が承久の乱を経て、支配力を拡大していく様子をイメージマップとして作成し、根拠を基に説明している。

(5) 授業の展開

(☆：言語活動，◎：ICT活用)

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	仮説実証の視点
導入	5分	一斉	1 鎌倉幕府の三つの勢力図を見て、鎌倉幕府が成立した当初の勢力図がどれかを考える。 2 「源氏将軍家と北条氏の系図」みて、気付いたことを発表する。 3 源氏将軍が3代でとだえていることを確認する。 4 鎌倉幕府の三つの勢力図を見て、源氏将軍が3代でとだえた後の幕府の勢力図がどれかを考える。 5 学習課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 鎌倉幕府成立当初の勢力範囲を予想させる。 教科書の資料「源氏将軍家と北条氏の系図」を見せて、この資料から分かることを自由に答えさせる。 源氏将軍家が3代でとだえたことに気付かせる。 源氏将軍家が3代でとだえた後の鎌倉幕府の勢力範囲を予想させ、3代でとだえているのに、幕府の勢力が拡大していくことに気付かせ、疑問をもたせる。 	◎ ICTを活用して資料などを見やすく提示し生徒の興味関心を高める。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 【課題】 どのようにして鎌倉幕府の支配力は拡大していったのだろう。 </div>					

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	仮説実証の視点	
展開	6分	一斉	6 個人で課題について調べ、イメージマップをリードシートに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> 個人で調べさせ、リードシートに記入させる。 	☆ リードシートに個人のイメージマップを記入させる。	
	4分	グループ	7 個人で作成したイメージマップをグループ内で発表し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 調べたことを、グループ内で説明させる。 	☆ 自分たちの考えを出し合って、イメージマップに表現していく。	
	15分		8 個人のイメージマップを基にして、グループ内でさらに課題について調べ、1つのイメージマップをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> 机間指導をしながら、各グループ内で、どのような根拠を基にして、どのようなイメージマップがつくられているのかを把握する。 		
	7分		9 イメージマップをもとに、課題に対するグループの考えを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 書画カメラでイメージマップを映しながら自分たちの考えを分かりやすく伝えさせる。 		☆ イメージマップを基に自分たちのことばで説明させる。
	5分		10 グループ間で意見が異なる部分に焦点を絞って相違点についてどう思うか、他のグループの意見を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> 相違点についてグループで考えさせ、意見を出させる。 		
	5分	一斉	11 課題に対して教師の補足・説明を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションソフトを活用して生徒が理解しやすいように補足・説明を行う。 	◎ 生徒の内容理解の促進をねらってプレゼンテーションソフトを活用する。	
終末	3分	一斉	12 教師の補足・説明をまとめた板書カードをノートに貼る。 13 次時の確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> 板書カードの中に出ている重要語句を色ペンでチェックさせる。 武士や民衆の暮らしについて学習することを伝える。 		

(6) 検証の方法

- ・学習意欲 …… 話し合い活動への取組、リードシートへの取組の様子を観察する。
- ・ICT活用 …… 導入で書画カメラを活用したことで、生徒が意欲的に課題に取り組めたかを観察する。
教師の説明の際にプレゼンテーションソフトを活用したことで内容理解が促進され、知識が定着したかを単元テストで確認する。
- ・言語活動 …… グループでの活発な意見交換の様子や、自分のことばで他の人へ説明している様子を観察する。